

助成事業完了報告書

日本財団 会長

報告日付: 2012年 4月 11 日
事業ID : 2010868366
事業名 : バイリンガル・バイカル
 チュラルろう教育の実践研究
団体名: 学校法人 明晴学園
代表者名: 理事長 米内山明宏
TEL: 03-6380-6775
FAX: 03-6380-6751
事業完了日: 2012年 3月30日

事業費総額	5,955,887	円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	2,195,887	円
助成金額	3,760,000	円 (千円未満は切り捨て)

事業内容:

明晴学園が開校し4年が経ち、バイリンガルろう教育の環境、指導法、評価やその実践事例など多くの成果を挙げてきている。読売教育賞の受賞や金融教育の委嘱校を受けるなど、一般社会からも認知されるようになってきた。また今年度より全日本聾教育研究会への発表も認められたことから、発表の場も広がってきた。そこで今年度は、これまでの成果をろう教育に関わる研究者や学生、ろう児とその家族へ向けて発表し、議論を深めることで、さらにバイリンガルろう教育の発展を図った。

明晴学園以外のろう学校等に在籍するろう児とその保護者向けには「オープンキャンパス」(学齢期対象)「乳児体験ろうの赤ちゃん、みんな集まれ」(乳児対象)の体験活動、授業を行った。また夏季休業日を利用して、ろう学校の教員やろう学校教員を目指す大学生等を対象に「ろう教育講座」など、バイリンガルろう教育をろう教育に関わるより多くの人々が認知できるような機会を設けることができた。

また明晴学園内部の職員研修では、バイリンガルろう教育の専門家を招いて勉強会を行ったり、保護者向けには、大家族会と名づけてろう児の家庭教育のあり方やろう文化についてなどのワークショップを行った。これらは大変好評でバイリンガルろう教育についての理解が深まるとともに、ろうコミュニティや地域でともろう児を育てていくネットワークの構築に貢献した。

1月21日に行われたバイリンガル・バイカルチュラルろう教育シンポジウムは、「アイデンティティとは何か？」をテーマにシンポジウムを開催した。参加者は160名と例年よりやや少ない人数であったが、はじめて参加した人やろうの大学生、それに年少のろう児をもつ保護者の参加が増え、より広範囲にわたってバイリンガルろう教育への関心を広めることができたと思う。

主な実践研究の内容は以下のとおりである。

シンポジウム

1月21日(土)	第4回 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育シンポジウム
----------	-------------------------------

明晴学園外のろう児と保護者、ろう教育関係者対象

6月10日(土)	オープンキャンパス
8月27日～28日	ろう教育講座
9月10日(土)	オープンキャンパス
10月1日(土)	乳児体験「ろうの赤ちゃん、みんな集まれ！！」

明晴学園職員勉強会

4月22日(金)	「日本手話のしくみ」1
6月3日(金)	「日本手話のしくみ」2
7月20日(水)	「身体表現論」
9月2日(金)	全日ろう研に向けて 小学部発表
10月4日(火)	「手話言語法について」 明晴学園理事木村晴美氏
10月19日(水)	全日ろう研報告会
12月1日(木)	「イタリアのバイリンガリズム」 御茶ノ水大学小谷眞男先生 (PC通訳による勉強会)
1月4日(水) ～5日(木)	職員研修合宿
3月2日(金)	「L1獲得とL2習得」 慶應義塾大学松岡和美先生

明晴学園保護者対象

7月9日(土)	保護者・児童合同「庄崎隆志ワークショップ」
10月8日(土)	保護者向け講演会「家庭の金融教育」

12月10日(土)	手話言語法フォーラムに参加
1月14日(土)	ワークショップ「学力と文化」 (小学部5年以上保護者企画に参加)

外部研究会発表

10月12日～15日	第45回全日本聾教育研究大会(長岡大会)
11月29日	2011年東京都金融・金銭教育協議会

事業目標の達成状況:

バイリンガルろう教育を実践する国内唯一のろう学校として、注目を集め、多くの見学者や研究者が本校を訪れるようになり、児童生徒数も着実に増加している。しかし、一方でろう教育の成果を日本語の習得や日本語による学力テストの結果だけで捉えようとする研究会や研究者も多く、全人的なろう児の教育についての議論にならないことも事実である。

そういった日本の価値観の中で今回、明晴学園の幼稚部をフィールドに、「ろう児のアイデンティティ、文化」に焦点をあて調査を進めてきたアメリカ・ジョージア大学(元アリゾナ大学)のジョセフ・トービン博士の基調講演は、ろう教育の根幹をなす大変意義深い内容であった。またトービン博士の調査対象となった3カ国のろう学校からそれぞれ講師を招いて、パネルディスカッションも行った。日本ではまだ明晴学園しか行っていないバイリンガルろう教育について、他国の現状を同じ視点から紹介し、議論できたことは日本のバイリンガルろう教育に大いに励みになり、刺激になったと思われる。

また開校以来、外部の人たちから希望の多かった「オープンキャンパス」「乳児体験」「ろう教育講座」など、明晴学園のノウハウを広く社会に広めることができたのは、大きな成果である。これまでの積み重ねをこうして外へ発信していくことで、バイリンガルろう教育の方法が発展できると考えられる。

事業成果物:

明晴学園研究紀要「子どもが学校を作る3」
案内チラシ
HP作成